

令和2年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

「税金のありがたみ」

柏市立柏第五中学校 三年 円谷 圭汰

突然、降り始めた大雨。僕は自転車のタイヤをスリップさせ転倒してしまった。「やばい、失敗した。」と思っていたところ、先を走っていた友人が、

「大丈夫か？」

と戻ってきてくれた。僕は転んだ恥ずかしさで

「大丈夫だよ。」

と答え起き上がり、自転車が壊れていないかを確認した。自転車には大してダメージがなかったが、僕の眼鏡はフレームとレンズが割れてしまった。

「目の横から血が出るよ。」

と言われたので、傷口を触ってみると雨と血がポタポタたれているのがわかった。友人から、

「絶対に病院に行けよ。」

と言われたが、大して痛みを感じていなかったので、

「わかった。」

と返事をして友人と別れた。僕の心の中は、傷のことより壊れた眼鏡のことでいっぱいだった。

「眼鏡を壊してごめんなさい。」

と、まず母に謝った。母は僕の顔を見て動揺した様子で

「何があったの。」

と聞いてきた。自転車で転倒したことを話すと、

「病院に行くよ。」

と言い、僕を病院に連れていった。

病院では傷口の処置や色々な検査をした。

僕の住んでいる市では、子ども医療助成受給券が発行されていて中学三年生までは通院一回につき三百円の自己負担で診察してもらえる。また調剤も無料となっている。怪我での通院は初めてだったが、この制度があつて本当に良かったと思った。自分は社会に守られているんだと初めて強く感じた。ただ、中学校を卒業してしまうとこの制度は使えないので、今後、怪我などで通院した場合、どの位費用がかかるのか不安になった。

病院には他市の医療制度についてのお知らせが提示されていた。「高校生等医療費助成制度」という、その市独自の事業についてで、子どもの保健対策の充実を図ることが目的とされ、保護者の経済的負担を軽減する等、市民の子育てを支援する。と記載されていた。僕の住んでいる市との違いに驚いた。そして羨ましくも思った。

税金はみんなの暮らしを支えるために使われるべきだと思うので、自分が住んでいる市の税金の使い道について興味をもった。また税金をどう使うかは、選挙で選ばれた市長や市議会議員によって決められているので、自分が将来、選挙権が与えられたら投票に行つて自分の権利を行使すると共に、納税の義務を果たしていこうと思う。